

鯖江市議会・市民創世会

大門よしかかずレポート



鯖江市新横江1丁目7-22 TEL/FAX(0778)52-7488 携帯090-6810-2462



ごあいさつ

今年の冬は、立春過ぎの思わぬ豪雪に見舞われ大変な思いをしました。被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。

近年の温暖化と立春を過ぎたことで、心に少し安心感があったように思います。そんな心の隙を戒めるかのような天からの警告だったのでしょうか。56豪雪以来37年ぶりの積雪に驚き、福井は雪国であることを再確認するとともに、「天災は忘れた頃にやって来る」という言葉を痛感しました。

今年は福井しあわせ元気国体・元気大会が県下全域で開催されます。花いっぱい運動や環境美化に努め、美しい街並みでお客様をお迎えしたいと思います。皆様方より一層のご協力を心よりお願い申し上げます。

3月議会一般質問より

3月議会は新年度の予算案が提示されます。新年度の施政方針が予算を伴い議会の承認を得る大事な議会です。私たち議員は十分に検証と議論をした上で、適正に執行されるよう注視していかなければなりません。

以下に、私の一般質問に対しての市長および担当部長の答弁の概要をお知らせします。

当初予算編成方針はどのように反映されているか

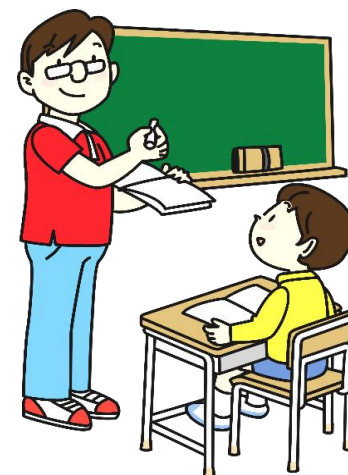
平成30年度当初予算編成方針の中で、国の経済状況は緩やかな回復基調が続いているとされており、

一方、本市においては、眼鏡産業がやや回復基調にあるといわれていますが、依然として厳しい状況には変わりありません。また、少子高齢化は確実に進行しています。社会保障関係の経費など義務的経費は毎年確実に増えているのが現実です。

本市の平成30年度一般会計予算は約253億円、昨年度に比べ約3億円の増となっています。

◎予算規模を増やした要因とそれに伴い重点を置いた施策等は

教育費が前年対比で約4億3千万円増えたのが大きな要因です。眼鏡、繊維、漆器等も、国際化、海外への販路拡大が非常に重要になってきており、英語教育の充実がかねてから望まれていました。人材育成、IT技術者の育成を見据え、2年の前倒しで英語研修もプログラム研修も実施するための充実強化を図りました。



学校支援員を全ての小・中学校に配置するなど、教員の多忙化にも対応しました。また、国体関連の諸経費もあります。

また、シティプロモーション枠、国体に係る美化枠、持続可能な地域モデル枠など、新たな枠の推進にも工夫しました。

所感 教員の多忙化対策など教育関連の予算を増額した点は大いに評価したいと思います。

◎財源確保に向けたあらゆる方策は

歳入確保の中で一番大きな地位を占めるのは税収です。この税収の安定確保は、やはり地域経済の活性化です。それと、収納率の確保です。それから、現在、大規模な施設、いわゆる箱物は原則凍結にしています。

一方、組合会計(公立病院、衛生組合など)とか特別会計(国保、上下水道など)の財政基盤の安定化が大きな課題になります。また、国・県の制度を活用して、市単独事業を減らすため情報をいち早くキャッチして予算に生かすようにしています。また、ふるさと納税やクラウドファンディング、F×Gの充実強化を図ります。

その他、消費税を10%に引き上げの際、受益と負担の適正化を前提として使用料減免のあり方等も議論していきます。また、資金調達方法として市民公募債を発行していきます。さらに、公共施設の総合管理計画の中で公共施設の統廃合や撤去というものも考えていかなければなりません。

所感 「入るを量りて出ざるを制す」というのが地方財政の基本であり、財源確保に向けたあらゆる方策を最大限に活用する必要があります。それがたとえ小さな収入であっても積み上げれば大きなものとなります。できるところからやって行って欲しいと思います。

◎U・Iターンや子育て支援にどのように反映されたか

新年度では引き続きシティプロモーションの活動により関係人口、交流人口を増やして、定住者の獲得につなげたいと考えています。そのため、移住定住希望者や、都市部で開催します移住フェア時の相談者向けに移住定住ガイドブックを新たに作成し、PR活動を行います。また、お試しサテライトオフィスモデル事業や、空き家改修への一部助成などは継続していきます。

また、子育て支援として、子育て支援センターで一時的預かりを実施したいと考えています。一人親家庭の児童の



西山公園管理事務所にある子育て支援センター

居場所、また学習機会を守るため、学習ボランティアによる学習支援事業を実施するほか、母子自立支援員などの配置も考えています。

所感 U・Iターンには更に力を入れて欲しいものです。ガイドブックには期待したいと思います。

◎市が認定している大使の種類とその活動内容とは



鯖江出身で、タレント、アーティストとして活躍されている『レキシ』こと池田貴史さんに『サングラス大使』をお願いしています。また、ミスワールドジャパン 2017で特別賞となる日本伝統文化賞を受賞しましたフルート奏者の杉原夏海さんに『ふるさと鯖江文化大使』に就任していただいています。また、タレントのキャシー中島さんには『シニアグラス大使』を任命させていただき、鯖江産のシニアグラスの企画販売などに取り組んでいただいています。

一方、グループとして仮面女子の皆さんに『めがねのまちさばえ大使』を任命させていただきました。メンバーの14人にそれぞれ関係する課長にご就任いただき、眼鏡や繊維、漆器といった地場産はもとより観光、文化、動物など幅広い分野にわたり、SNSやメディアを通して本市のPR活動にご協力をいただいています。

所感 地元出身者、関係者をもっともっと掘り起こしても良いのではないのでしょうか。

シティプロモーションについて

◎シティプロモーションを進める背景と目的とは

自治体競争の中で、自治体の顔、個性を売ることがこれからの大きな自治体の課題です。鯖江には顔として『めがね』が経済界でもほぼ異存なくご理解を得ていると思

ます。そういった中で、『めがねのまち』をこれから自治体ブランド、地域ブランドとしていかに売っていくかということです。職員一人一人が営業マンとなって、いろいろなところで活動することが必要です。

現在、少子高齢化に伴い生産人口がどんどん減って行き、市場規模も縮小されるでしょう。そういった厳しい状況の中で鯖江が50年、100年先、『めがねのまち』が光り輝いているようにするためにも、持続できる開発目標(SDGs)も大きなテーマです。

所感 「さばえ=めがね」は、かなり知名度が上がってきているように感じます。この知名度が地域活性化と人口増にいかに関わり付けていくかが課題です。

◎鯖江市がこれまで築き上げてきた都市イメージとこれから目指す姿とは

鯖江の都市イメージは『ものづくりのまち』です。眼鏡、繊維、漆器が専門化された分業体制の中で今日の発展を見ているのは、内発的なイノベーションです。最近ではメディカル、ウェアラブルに対する新産業創造です。このような『ものづくりのまち』の都市イメージをこれからどう確立するかです。それは、いわゆる顔と個性です。



今、顔は『めがねのまち』ですが、個性をどう付加価値としてつくり上げていくか、これは知恵と工夫です。鯖江の場合、地域資源というのが非常に豊富にあります。これをいかに『めがねのまちさばえ』に付加して自治体イメージ、地域イメージとして確立して、他の自治体と差別化できるまちとして国内外に発信することが大きな課題です。

◎シティプロモーションを進める上で市民の共感と一体感をどのように捉えているのか

めがねのまちの応援企業とか、応援隊とか、非常にたくさんの方が鯖江の取り組みに協力していただいています。しかし、一番大事なものは、子供たちがこのふるさとに自信と誇りを持って、この地域に住みたい、働きたいと思えるような街づくりです。それは、雇用の確保にあると思います。若い女性の求人倍率は非常に低いと思われます。そのような希少価値のある事務系の雇用の場を鯖江にどのよう

にして作るかが大きな課題だと思います。首都圏へ行かれても、雇用の場があれば帰っ



空き家を改修したサテライトオフィス

てくると思います。向こうの方で嫁がれた方もこちらに帰ってお子様連れでITのエンジニアを目指すような方も出てきています。そういった方の雇用の場をとにかく鯖江に創ることがこれからの大きな課題だと思います。

◎戦略プランや手順書など、明確になっているのか

全体的な計画というものは総合戦略に書いてあります。その中でコンセプトというものをいろいろな事業展開の中で生かすような工夫はしています。ただ、市民に分かり易いかというと、若干分かりにくい点は否めないと思います。しかし、名前を売ることが先決です。名前を売ることによって、鯖江がどういう街かということが自ずと掘り起こしが出てくると思います。

シティプロモーション活動につきましては、今後とも市民理解のもとで進めていこうと思いますので、一つ一つの事業展開につきましては、これから手引きなどを作り、お示ししていきたいと思っています。

仮面女子とのコラボレーション事業について

質問の背景

鯖江ブランドとは地場産業、歴史、風土、市民性も含めて鯖江市そのもののブランド化であると認識しています。その意味でも品位と品格が必要ではないでしょうか。

そのような中、鯖江市が仮面女子をブランド大使として起用することは、賛否両論があると思います。こうした素材はあくまで話題づくりのための仕掛けであって、



本当はバックグラウンドとなっている市の風景やすばらしい歴史や文化、伝統産業を知ってもらおう事が狙いでしょう。しかし、受け取る側はどう捉えるかわかりません。地域ブランド大使は発信する、その地方に住む市民の良識が試されているとも言えます。

鯖江は『めがねのまちさばえ』をキャッチフレーズに掲げています。めがねに携わる人たちは、美しく機能的で顔にマッチしたデザイン、個人のアイデンティティを引き立てるデザインに一生懸命取り組んでいます。その鯖江に仮面をつけたアイドルが相応しいのか検証すべきです。鯖江市がこれから目指すべき都市イメージとこのようなコンセプトを持って活動するアイドルとをどのように調和させようとしているのでしょうか。

◎仮面女子を起用した狙いについて

チャレンジにはリスクとハレーションはつきものです。これまで新しいことに挑戦してき



鯖江の日イベントにて

ましたが、話題性のあるものほど、リスクとハレーションが付いてきました。それを乗り越えていかなければ、新しいものは生まれません。

仮面女子のメンバーたちは真摯に取り組んでいます。SNSの社会でいろいろな情報を発信してくれています。これまでの大人と社会の常識と価値観を破らなければ国も自治体もダメになると思います。

今後ともリスクとハレーションは当然覚悟の上で新しいものに挑戦して行きます。そして交流人口、関係人口を増やして、定住人口に繋げる取り組みをやっていきます。話題性づくりはこれからもチャレンジし続けていきたいと思っています。

◎映画のコンセプトとその活用方法は

映画は、30分の短編映画を3本作製します。それぞれ1本ずつで完結しながらも3本を繋ぐと1本の長編になるという提案です。コンセプトは、本市のPRとともに、映画をご覧になった方が本市を訪れたい内容を目指しています。仮面女子のメンバーと俳優さんにより、眼鏡、繊維、漆器などを効果的に取り込む予定です。また、短編1本1本の映画祭の出展、また動画サイトでの放映、またDVD化も行います。本市のPRに効果があるものを作り、有効活

用していきます。

所感 『仮面』という言葉が強烈なインパクトを与える言葉だけに鯖江市のイメージとして定着することがいかなものかと危惧せざるを得ません。仮面女子を今後も活用するならば、鯖江の眼鏡をかけた『めがね女子』みたいな特別ユニットを結成し、地元限定で活動していただいてはどうでしょうか。『めがね女子』であれば『めがねのまちさばえ』がしかりPRできます。また、鯖江市もしくは福井県出身の子をメンバーに加えていただければ、地元や市民の応援が得られるようになります。また、ご当地アイドルになりますから、ファンは鯖江に来なければ会えません。地域の活性化と経済効果も出てきます。さらに、地場産業のPRと活性化も含めて、市民の共感を盛り上げる工夫をするべきです。

質問後の展開ですが、新しい衣装はお椀をイメージさせるスカートと蒔絵を連想させる織物。背中にはめがねのマークを取り入れて鯖江の産業をアピールをしています。好ましい方向に向かっていると思います。

あとがき 平昌オリンピックで銅メダルを獲得した女子カーリング選手、吉田知那美選手のメッセージをご紹介します。

「小さいときはこの町には何も無い、夢はかなわないと思っていた。だけど、今はこの町にいなかったら夢は叶わなかったかなと思う。みんなもたくさん夢があると思うけど、大切な仲間や家族がいれば夢はかなう、場所なんて関係ない」

オリンピックでのメダリストのような大きな夢でなくても

「温かい家庭を築きたい、安心して暮らせ、心豊かで優しい子供を育てたい、そんなささやかな夢でもここなら持てる」

そんな思いを抱けるような市民を1人でも増やせるよう、市民も市政に携わる職員も、私たち議員も一緒になって造っていききたいと思っています。

